

会 議 録				
令和元年度第1回 生活支援事業協議体	日 時	令和元年5月21日(火) 14時00分～16時05分	場 所	前原暫定集会施設 A会議室
事務局	小金井市福祉保健部介護福祉課			
出席者	委員	高良委員長（東京学芸大学） 小早川委員（社会福祉協議会） 阿久津委員（社会福祉協議会） 山根委員（小金井あんず苑） 清水委員（民生委員児童委員協議会） 井上委員（ボランティア団体代表） 第2層コーディネーター 中川氏（小金井きた地域包括支援センター） 金子氏（小金井ひがし地域包括支援センター） 馬場氏（小金井みなみ地域包括支援センター） 雨宮氏（小金井にし地域包括支援センター）		
	事務局	平岡、濱松、菊地原（介護福祉課）		
傍聴の可否	◎可 ・ 一部不可 ・ 不可		傍聴者数	
傍聴不可・一部不可の場合の理由				
次 第				
1 開会 挨拶 平岡高齢福祉担当課長				
2 議題				
(1)委員自己紹介				
(2)委員長選出				
(3)生活支援体制整備事業について				
(4)報告事項				
① 資源情報冊子「シニアのための地域とつながる応援ブック」作成状況				
② 平成30年度お元気サミット in 小金井報告				
③ 平成30年度市全体の地域ケア会議報告				
④ 2～4月分生活支援連絡会報告				
⑤ 生活支援コーディネーター活動報告				
⑥ 平成30年度各地域包括支援センター活動報告				
⑦ 令和元年度各地域包括支援センター活動目標				

3 その他

次回協議体の開催予定

4 閉会

1 開会

(濱松包括支援係長)

それでは、定刻となりましたので始めさせていただきたいと思います。ただいまより令和元年度第1回「生活支援事業協議会」を開催いたします。

私は事務局を務めます包括支援係の濱松です。よろしくお願いいたします。

今回委嘱させていただいた委員の方は前回同様6人となっております。前期より引き続き御協力いただけます3人の委員の方と今期から御協力いただくことになった3人の方による委員構成となっております。また、4人の第2層生活支援コーディネーターも引き続き出席させていただきます。委員の任期は2年間となっております。どうぞよろしくお願いいたします。

それでは、最初に福祉保健部高齢福祉担当課長の平岡より御挨拶させていただきます。よろしくお願いいたします。

(平岡高齢福祉担当課長)

皆さん、こんにちは。本年4月から高齢福祉担当課長を拝命いたしました平岡美佐と申します。何とぞよろしくお願いいたします。

本日の協議体は、先ほど濱松より紹介がありましたとおり、委員改選後、初めての開催と聞いてございます。まずは御多忙にもかかわらずこの委員を受任していただいたことに深く感謝申し上げます。まことにありがとうございます。任期は2年間となっておりますが、本市の高齢者福祉施策の推進のために御協力を賜ればと存じます。

市といたしましては、高齢者福祉の増進のために国が進める地域包括ケアシステムの構築を推進していくことが喫緊の課題であると感じてございます。特にこちらで協議をしていただきます生活支援・介護予防の部分につきましては、健康寿命を延ばし、地域の互助の仕組みを整えていくことにより、介護が必要になることを未然に防ぐことができることから、地域での生活を望む多くの高齢者や家族にとっても利点が大きく、また膨らみ続ける社会保障費の抑制という側面でも大変重要な意味を持つ分野でございます。

本協議体では、その部分で皆様、委員のお知恵を拝借いたしながら市の行政を進めてまいりたいと思いますので、活発な御議論をお願い申し上げます。本日はどうぞよろしくお願いいたします。

以上です。

2 議題

(1) 委員自己紹介

(高良委員)

東京学芸大学の高良と申します。

(小早川委員)

小金井市社会福祉協議会の小早川と申します。

(阿久津委員)

同じく小金井市社会福祉協議会の地域福祉コーディネーターをしています阿久津と申します。

(清水委員)

この表から1つとばして民生委員の清水と申します。

(山根委員)

介護老人保健施設小金井あんず苑で介護科長をしています山根と申します。

(井上委員)

小金井ピア・カウンセラーの会というボランティア団体の代表をしております。

(中川氏)

きた包括の中川です。前年度までおりました黒松の退職に伴いまして今年度より2層コーディネーターとなりました。

(馬場氏)

小金井みなみ地域包括支援センターの馬場と申します。

(雨宮氏)

小金井にし地域包括支援センターの雨宮です。

(金子氏)

小金井ひがし地域包括支援センターの金子と申します。

(2) 委員長選出

(濱松包括支援係長)

それでは、続きまして委員長の選出に入りたいと思います。委員長は委員の互選により定めることとなっております。

お諮りいたします。委員長の選出方法について御意見はございませんか。

(阿久津委員)

指名推薦による選出を提案いたします。

(濱松包括支援係長)

阿久津委員より指名推薦による選出の提案がございました。御異議はございませんでしょうか。

(「異議なし」と声あり)

(濱松包括支援係長)

それでは、御異議なしと認めさせていただきます。指名推薦によることとさせていただきます。

どなたか推薦いただけますでしょうか。

(阿久津委員)

前委員会から引き続き高良委員を推薦いたします。

(濱松包括支援係長)

高良委員を委員長へと御推薦がありました。御異議はございませんでしょうか。

(「異議なし」と声あり)

(濱松包括支援係長)

それでは、御異議なしと認めさせていただきます。高良委員を委員長とすることに決定いたします。

以上で私の職務は終了いたします。御協力ありがとうございました。

以降の進行は委員長にお願いいたします。よろしくお願いいたします。

(高良委員長)

改めまして今年度も委員長を務めさせていただきます東京学芸大学の高良です。どうぞよろしくお願いいたします。

こちらの協議体につきましては初年度から担当させていただいておりまして、地域包括支援センターの皆様が生活支援コーディネーターとして、第2層のコーディネーターとして本当に活躍されていらっしゃる着実な地域づくりの経緯を経験させていただいております。本日も30年度、昨年度の活動報告がありますし、また今年度に向けての活動の計画も御報告があると思いますので、小金井市の地域が、高齢者の方はもちろんですが、誰もが生活しやすい地域になるようにこの協議体をますます活用していただいて、地域づくりを進めていただければと考えております。

委員の皆様もこのような形で昨年度から引き続きやったださっている方、また新たな方もお入りいただいておりますので、新たな視点を加えまして皆様と一緒に協議体をうまく機能していければと考えておりますので、どうぞよろしくお願いいたします。

(3)生活支援体制整備事業について

(高良委員長)

それでは、議題に沿いまして進めていきたいと思っております。「生活支援体制整備事業について」ということで、事務局からお願いいたします。

(濱松包括支援係長)

それでは、小金井市の生活支援体制整備事業とこの協議体について、非常に簡単ではありますがありますけれども、説明させていただきます。

生活支援体制整備事業を非常に端的に申し上げますと、地域包括ケアシステムの推進のために実施される事業の1つとなっております。

団塊世代の方が75歳以上になる2025年をめどに、医療、介護、住まい、生活支援、介護予防の5つの構成要素をきちんと構築していくことにより、住みなれた地域で住める体制を整えましょうというのが地域包括ケアシステムの考え方です。

介護保険法の改正なのでありますが、どのように改正したかというのがこちらのスライドになっております。介護保険の予算に関する仕組みの中に、簡単に言うと地域の特性に合わせた事業をやりなさいという地域支援事業という事業の部分がございませう。地域包括ケアシステムの構築の推進に係る事業につきましては地域支援事業の中に組み込まれております。

先ほど申し上げました地域包括ケアシステムの5つの構成要素のうち、医療と介護がその状態になった場合でも在宅で安心して生活できる体制を整えること、それぞれで構築推進の取り組みを図られているところでございませうけれども、それは両方の連携が在宅で生活を続ける場合には必要であろうということで、この連携についても事業化されています。そちらが在宅医療・介護連携推進事業ということで事業化されております。

同じようにこれから認知症の方もかなり増えてくるであろうということで、認知症の方を地域で支えていきたいと思いますということで、そういったものは認知症施策推進事業ということで事業化されております。

上の2点につきましては比較的身体機能が低下した状態を支える体制づくりになってこようかと思えますけれども、原則主体的なところは専門職が担ってくる部分と考えております。ただし、一番下の部分、生活支援体制整備事業が出てくるのですけれども、こちらにつきましては生活支援、介護予防については元気の維持ですとか健常者の生活が継続できるように地域で支える仕組みを整えましょうということが事業化されるということになってまいりました。

その事業を進めていくためには行政としてどういうバックアップをしていくかというのがコーディネーターと協議体になってまいります。

コーディネーターにつきましては1層と2層という考え方がございまして、小金井市の場合は1層は市、先ほどちょっと御挨拶させていただいたのですけれども、こちらが1層のコーディネーターという形で小金井市全域を見る形になります。2層につきましては今日御出席いただいている包括支援センターの職員の皆さんが担っていただいております。

現在、毎月市と2層のコーディネーターの連絡会を実施いたしまして、後ほど報告させていただくのですけれども、ここで事業の進捗ですとか情報交換を行っています。2層の方の活動だけではなくて、日々の包括支援センターの活動報告により課題が抽出できるように現行の見直しなどを図っている最中でございます。

協議体につきましては、これも後ほど報告させていただくのですけれども、評価シートなどを用いまして課題や解決策を整理して、委員の皆様にご意見をいただき、事業に協力していただきながら、市として本事業の方向性の確認ですとか施策の実施に結びつけていくという位置づけになっています。

実際に協議体で検討を重ねていただいたわけなのですけれども、具体的に結びついた事例としては、買い物が困難な部分があるというような意見の中で移動販売を買い物支援が難しい地域に呼んでいただいたり、居場所づくりの支援、こちらは「応援ブック」という居場所を一覧にした冊子の作成、また認知症見守り支援事業といった事業につきましても生活支援体制整備事業とかかわりながら進めていって、事業化が進んでいる部分になっております。実際に成果は上がり始めているところなのですけれども、冒頭申し上げましたとおり、介護予防ですとか生活支援体制整備事業は健康寿命を延ばしていく、元気な部分をいかに延ばしていくかという非常に難解な部分になってくると思いますので、引き続き皆様の御協力をお願いできればと思います。

非常に雑駁ではありますが、生活支援体制整備事業の概要といたしましては以上でございます。

(4) 報告事項

① 資源情報冊子「シニアのための地域とつながる応援ブック」作成状況

(高良委員長)

それでは、4番の報告事項に移っていきたくと思います。①番の「資源情報冊子『シニアのための地域とつながる応援ブック』作成状況」につきまして報告をお願いいたします。

(濱松包括支援係長)

今年度は昨年度のものと同様等に変更に大きな変更はせず、情報を更新する形での発行を予定しております。発行時期についても昨年とおおむね同時期である9月か10月ごろを予定しております。

本冊子につきましては、市医師会が主体となっている地域包括ケアシステム研究会という研究会がございまして、そちらの介護予防部会の中でも話題に上りまして、改めて関係者に周知させていただいたところです。今年度もコーディネーターと連携しながら内容の充実を図るとともに、周知にも努めていきたいと考えております。

(高良委員長)

それでは、引き続きこちらの「応援ブック」をよろしく願いいたします。

② 平成30年度お元気サミット in 小金井報告

(高良委員長)

では、「平成30年度お元気サミット in 小金井」ということで、こちらの御報告をお願いいたします。

(濱松包括支援係長)

お元気サミットにつきましては、昨年度2月13日、14日の2日間にわたり小金井宮地楽器ホールのお会場で実施いたしました。

主な内容として、13日は認知症に関する講演会及びシンポジウムを、14日は生活支援体制整備事業に関する講演会、さくら体操の実演、測定会、医療介護連携事業として多職種による寸劇、講演会、シンポジウムなどを行いました。両日を通じて生活支援関係の圏域ごとの活動や公募した介護予防川柳の展示も実施いたしました。

参加人数といたしましては、2日間延べで昨年度とおおむね同数の369人の方に御来場いただきました。

生活支援に関する講演会では、居場所づくりの好事例の発表ということで、三鷹市の2層コーディネーターの方をお招きし、空き家を活用した居場所であるのがわの家について発表していただきました。また、市内の好事例の発表として、地域福祉ファシリテーター講座を修了されたこばゆき様から、森のこみちという民家の一部を多世代交流の場としての居場所として立ち上げられて現在7年目を迎えている活動について発表をしていただきました。

こちらの内容については三鷹のコーディネーターさんに御報告して大変喜ばれていて、私どもとしてものがわの家自体がかなり小金井市と三鷹市の市境にあるものですので、生活支援体制整備事業自体そんなに市域とかにこだわらなくてもいい部分があるので、ぜひこういった部分についてもこういうことをきっかけに三鷹市のコーディネーターと交流しながらお互い刺激をもらえればいいですねと話をしたところなので、担当といたしましてもぜひ今度見学に行ってみたいなと思っていますところなんです。

また、展示につきましては、2層のコーディネーターの方に各圏域の取り組みをわかりやすく作成していただいて、終日多くの方が足をとめて見学されていました。

今年度につきましても、現状では詳細は未定なのですが、同様の取り組みを図ってまいりたいと考えております。

私からは以上になります

(高良委員長)

1つ御質問させていただきたいのですが、今、お話がありましたように三鷹市さんの実践報告みたいなものをされたということで、近隣市との連携みたいなものも今後されるというお話なのですけれども、そこはすごく大切な視点だと思います。市民の方が別の市の例えば憩いの家とか社会資源に非常に近くて、むしろ小金井市を使うよりも三鷹市のほうに行きたいというのはあるのですか。

(濱松包括支援係長)

基本的には居場所側の方々の考え方によると思うのですが、のがわの家につきましては近隣市の方もいらっしゃっているというお話を伺っていますので、特にそういった市民とかいう分けは設けていらっしゃらないのかなと思います。

(高良委員長)

多分市民の方々の利便性を考えると、小金井市だからここまでとか、別の市だからここまでしか使ってはいけないということではない状況をつくるのは1つの大切な要素ではないかなと思いますので、今回のがわの家の方はそれでいいよとおっしゃってくださっているのだけれども、ほかのところももしそういったことで自分たちの市民しかだめなんだみたいなことがないような形で、やはり市の中でも近隣の市の方たちと連携を深めていただいて、そういった協定というに変ですけれども、何らかの環境整備みたいなものをつくっていただきたいなと思います。またこれが1つの希望となりますので、必要がありましたら随時検討ができればと思います。

③平成30年度市全体の地域ケア会議報告

(高良委員長)

では、「平成30年度市全体の地域ケア会議報告」をお願いいたします。

(濱松包括支援係長)。

市レベルの地域ケア会議につきましては、本年3月28日に開催いたしました。昨年度の本協議体の中で、市レベルの地域ケア会議に上げるべき議題を御検討いただきまして、小地域ケア会議をもとにそれぞれの圏域の課題として、通院・移動支援ですとか防災の視点からの地域づくりに係る伝達方法、ボランティアの仕組みづくりや担い手の確保などを上げていただきました。

事務局等で協議させていただきまして、これらの課題に共通することとして担い手がいれば解消できる部分があるのではないかということになりまして、こちらであれば共通して市レベルに上げて話していただく内容としていいのではないかとなりまして、当日は担い手の創出と継続についてという議題で地域ケア会議を開催いたしました。

4つのグループに分かれて検討した結果、出された意見を大まかにまとめますと、課題として周知、体制、その他といった意見が見られました。

まず周知の部分として、インターネットのさらなる活用、敬老会などでのPR、歯科・薬局、美容院などの活用や、いきなりボランティアなどの活動は難しいので、ボランティアに関するイベントを行ってみてはどうかといった意見が担い手の創出の部分としては周知という観点から出されたところになっております。

また、体制的な課題として、マッチングやニーズの把握がうまくいっていないのではないかと、コーディネート機能の強化で解消できないものかとか、ボランティアセンターはあるが、町内会や自治会レベルなどもっと小さなエリアでできないものかとか、ボランティアポイントの周知ですとか拡大を図ってはいかがかという意見が出されました。

そのほかの意見といたしましては、男性に担い手をお願いする場合には具体的な役割を与えたほうが動きやすい、防災・災害など集まる目的を明確にすれば集まりやすく顔の見える関係づくりにつなげられるのではないかと、あるいは学校などと連携して学生のボランティア活動を支援する仕組み、例えば学生に単位をあげる、継続していくメリットがあればそういった活動の動機づけになってくるのではないかとといった意見が出されました。

(高良委員長)

まず確認ですが、こちらの市全体の地域ケア会議の中で今後市として推し進めていくぞという決定事項はありますでしょうか。

(濱松包括支援係長)

一応ケア会議に出されたものは施策に反映するのが大原則になっておりますので、もう一度細かい部分で先生がおっしゃったようにどこが担当していくかというのは整理して進めていかなければならないとは思っております。

(高良委員長)

では、その経過につきましても教えていただきまして、特に生活支援に関連することにつきましては御報告いただき、こちらの中での検討課題としても上げていただければと思います。

(小早川委員)

地域の課題を地域でできるだけ解決できるようにするにはどうしたらいいかとか、それはまだ答えはないにしても、何でも行政に頼るとか何でもサービスをつなぐではなくて、お互いに助け合えるようなシステムができたらいいいのではないかとというような話だったと思います。

(中川氏)

おっしゃるとおりやはり小さな単位でかかわらないとちょっと難しいだろうねとい

うことで、歯医者先生がいらっしゃったものですから、掲示板を利用するならやってもいいよとか、美容院であるとかそういう人の集まる場所を活用してみてもどうだろうかなんていう話がちらっと出たと思います。

(高良委員長)

周知も大切だと思うのですが、こちらの先ほど御報告にもあったように、最初のやろうかなと思うところはあっても、次のアクションに行くのがすごく難しいのだと思うのです。

(高良委員長)

2月～4月分の生活支援連絡会を開催して下さっていますけれども、こちらの御報告をお願いいたします。

(濱松包括支援係長)

今期間では先ほど御報告申し上げましたお元気サミットのことで「応援ブック」について、あと本日の協議体の開催に関する事を主に打ち合わせを行っております。詳細につきましては資料をごらんください。

以上になります。

- ⑤ 生活支援コーディネーター活動報告
- ⑥ 平成30年度各地域包括支援センター活動報告
- ⑦ 令和元年度各地域包括支援センター活動目標

(高良委員長)

それでは、続きまして⑤番の「生活支援コーディネーター活動報告」に入っていたきたいと思います

(金子氏)

ひがし包括の活動報告とあわせて30年度、令和元年度の活動目標までお話しさせていただきます。平成30年度におきましては、地域課題と考えられる課題を、気楽に集まれる居場所が少ない、健康に不安がある、買い物困難という3点に絞って取り組みを進めてまいりました。

結果といたしましては、小地域ケア会議も行いまして、気楽に集まれる居場所づくりをやってみようという御意見をいただきましたので、今、立ち上げの検討をしているところです。中町1丁目、4丁目地域のエリアに的を絞って、小地域ケア会議を30年度3回目の開催といたしまして、坂の下の地域のエリアで課題について検討いたしました。その地域にお住まいの方から自宅を開放して居場所を立ち上げてもいいよというお声をいただいたので、現在、その立ち上げの検討を行っております。

また、坂下地域に居場所がないところから、有料老人ホームの場所を借り受けまし

て健康づくりの場、さくら体操の自主グループも立ち上げることが確保できております。そちらの活動は参加者が現在は15人くらいの地域の方に御参加いただけるような活動に定着してきております。

また、活動の周知で移動販売などの誘致を行うことで活動のPRをしようということ今年度課題として取り組みました。御協力いただけるお店の方がおられましたので、移動販売も開催に結びつけることができました。結果、15人の活動に結びつけられたのかなと思っております。

30年度はひがし包括におきましては移動販売に力を入れまして、印象に残った活動の取り組みかなと思っております。もともとひがし包括で毎月定例で商店会を回らせていただいているのですけれども、商店会さんも自主的にお祭りという形でイベントを開催していただけるようになり、その際に包括にも何かやれないだろうかというお声かけをいただきました。さくら体操の活動支援ということで、縁日の中でひがし包括のPR、あわせてさくら体操を行うというような形で行っています。地域が主体的に活動を行っていただけるようなかわりを持たせたことが30年度においては印象に残った活動と考えております。

令和元年度、今年度におきましては、昨年度までの小地域ケア会議を踏まえまして地域課題を検討することがほとんどないというところから、地域の方々がおのずから地域の課題について着目する機会がないのではなかろうかという意見が所内の中で出ています。なので今年度の課題として住民みずからが地域課題に着目していないという書き方をさせていただいておりますが、そのほかに地域の力、担い手を把握できていないところも課題として上げさせていただいております。担い手というところは、昨年も居場所づくりの立ち上げを検討しているのですけれども、やはり担い手になってくださる方がなかなか見つからないことからこの課題を上げさせていただいております。また、ひがし包括におきましては、地域に特化して小地域ケア会議をここ数年開催してまいりましたので、今度東町、中町、本町1丁目、ひがし圏域全体の中で地域課題を抽出していく方向でセンターも把握していきたいと考えておりまして、このような課題とさせていただいております。

具体的に活動計画といたしましては、昨年度の活動を継続しているところが主となっておりますが、申しわけありません、前後してしましますが、資料3の地域活動グループ間の交流の機会を設けることが30年度におきましては達成することができませんでした。ですので今年度はこの活動を中心に据えて取り組みを行ってまいりたいと思っております。活動目標の2番、活動団体への活動支援と3番の圏域レベルの小地域ケア会議を開催し、参加者間で地域課題の共有を図るということにさせていただきました。こちらの活動を目標といたしまして、手段の内容を組み合わせて行っていければと思っております。

そのほかは昨年度まで行ってきた情報紙の発行ですとか、商店会回り、園児の体操の継続等は引き続き行ってまいりたいと思っております。

以上になります。

(高良委員長)

昨年度の時点で移動販売の誘致をされていかれたということですが、これに関しては周知レベルのままの状態なのでしょうか。

(金子氏)

そうです。なかなか実際のところ地域の方々がお買い物にいらっしゃるのはまだ少数で、場所をお借りしている施設の入居者の方が主にお買い物に来てくださっている状況になっています。お店側の方がマルシェ的な形で開催したいという御提案をいただいているので、その方向で検討していきたいなと思っております。

(高良委員長)

実際にニーズがあるのであれば、またここが1つの皆さんが集まって会話ができる居場所にもなり得るような機会になるのであれば、ぜひ継続していただきたいし、実際に必要である方にはちゃんとそこにあるんだよということがわかる情報周知は非常に重要だと思います。

さくら体操に15人集まられているというのは規模的には大きいものなのですか。

(濱松包括支援係長)

会場によっていろいろな種類がございまして、まず大きなカテゴリーとして管理会場といって市で会場を用意しているものと、そこを卒業されて自主グループといって自分たちで活動を始められている会場がございまして、自主グループの会場につきましては本当にさまざまで、少ないところで数名というところから、大きなところだと十数名単位でやっていらっしゃるところもあります。管理会場につきましては比較的大きな会場を借りておりますので、1会場につきまして大体40人くらいいらっしゃるところはあります。

(高良委員長)

それであれば別に15人だからどうのというよりも、要は継続して皆さんが集まられていて、お顔がわかるような状況があり、何らかのつかず離れずの関係性があって、いざというときに最近来ないなあの人というふうに気づけるみたいな関係性が継続できるというのではないかなと思いますので、そういった意味ではしっかりと活動されていらっしゃると思います。

また、金子さんからこのところが今、ちょっと迷っていてとか、こういうことを知りたいのだというのがあれば。

(金子氏)

昨年度の地域課題で居場所をつくりましょうという話にまとまったのですが、やは

り担い手となる方を探し当てられず、場所は見つかったものの動き出せずというところがあります。

(高良委員長)

それでは、担い手をどう探されているかとか要請されているかみたいな部分については多分全てのところで共通する課題だと思うのですが、まず気楽に集まれる居場所の立ち上げで、要は自宅を開放してくださる方がいらっしゃって、場所はあるということですね。

(小早川委員)

社協の場合は、どちらかという講座を開いて修了生が立ち上がって何かやろうというケースが多いです。一度会った方を何となくつないでおくというか、難しいです。たまには元気とかお声かけしておいて、何かあったときにお声かけできるように心がけてはいます。

(金子氏)

お声かけ自体は小地域ケア会議の地域にお住まいの方たちに向けて発信しているところです。その地域にお住まいの方たちで何とか運営できたら一番継続的に活動していくにもいいのかなと思っておりましたので、お声かけするときも地域活動を積極的にされている方に関しましては地域に限らずお声かけをさせていただいているので、大々的にPRしたのかと言われるとそこまではしていなくて、そういう形も1つ取り入れたいなと思います。

(高良委員長)

もしかすると移動販売に関しても地域の周りの方たちだけではなくて、逆に遠くても来てみたいという人もいらっしゃるかもしれないので、そういった意味では全体にPRするのも1つの手ではあるのだろうなと思います。ありがとうございます。

担い手に関してはいかに担い手をとというのは先ほどの市全体の課題でもあるところではありますが、後ほどまた時間をとりまして全体の課題として話し合いができればと思います。

(雨宮氏)

西のエリアの報告をいたします。

30年度の活動報告のまとめなのですが、大きく3つございます。

まず第1点は、東京学芸大学を活用してはどうかという御意見をいただいていたしまして、10月と11月、12月と3回東京学芸大学にて介護予防ウォーキングを企画し、にしのエリアで試験的に実施いたしました。とても盛況でありまして、ウォーキングを通じて学芸大学のよさを実感していただくことができました。敷地の中に畑があったり、保育園児が遊びに来たり、学生が運動する姿を見て昔を懐かしむ光景もありま

して、五感で楽しんでいただけるようなすてきな場所でありました。

2つ目なのですが、3月初めに高良先生から東京学芸大学のお花見学入門、実践の講習会の情報をいただきました。地域の方々に情報提供をして12名が参加されました。ちょうど桜の咲く時期でありまして、大学構内で開花しているさまざまな桜を観察して、樹木医の先生から桜の病害虫対策の知識を学んだり、専門的な知識を教えてくださいました。こちらを開催して実際に感じたことなのですけれども、ふだん運動とかウオーキングに参加されていない、植物に興味を持たれた方に参加していただきました。なのでいつも参加されているメンバーとは違う参加者に参加していただいたことで、こういう選択肢もあるのだという新たな発見をいたしました。

3点目につきましては、ボランティアです。にし包括では去年の4月の段階で小金井地域ボランティアの会の方に来ていただいて、現状を伺いました。11月に地域ケア会議を開催し、八王子小規模多機能拠点における取り組みということで八王子保健生活協同組合の方に来ていただいて、実際どんな取り組みをなさっているかをお伺いいたしました。ボランティアに関してはまだまだ始めたばかりでして、今のところ情報を収集した段階です。ただ、今後については1包括だけでやっていくのはとても大変なので、ボランティアセンター、地域福祉コーディネーター、あとはほかの生活支援コーディネーターや地域の方々と協働して進めていけたらと思っております。

令和元年度の計画についてです。

1番目が、学芸大学介護予防ウオーキングが盛況だったため、今後は市報に掲載して計画的に実施を予定しております。既に5月16日に実施し、13名の御参加をいただきました。今後は10月と11月に予定しております。

2つ目として、学ぶことを好まれている方がいらっしゃることを確認いたしましたので、教養講座など学芸大学に御協力いただきながら、参加しやすい地域活動を検討していきたいと思っております。

3つ目は、多様なボランティアの方法について、他機関と協働して参加しやすい仕組みづくりなど、今後も引き続き検討していきたいと考えております。これは具体的な目標というよりは、どういった方向にしていっていいかということをご一緒と考えていきたいと思っております。今後も引き続き楽しみのある地域を目指していきたいと考えております。

以上です。

(高良委員長)

ウオーキングに来ていただいて、樹木医の先生の桜の観察講座も御参加いただきまして、大学としてもとてもありがたかったと思います。興味のある方が来てくださるのは樹木医の先生としてもやりがいを感じられたみたいでとてもありがたかったので、ぜひ今年度もまた活用していただきたいかなと思います。

先ほど興味、そういった学びたいみたいな意欲がある方がいらっしゃるというお話だったのですが、本学としましては公開講座をさまざまなテーマでやっているのです。ホームページを見ていただいて、地域の高齢者の方にとって御興味を持たれるのではないかなみたいなことがありましたらぜひ御活用いただきたいです。

(雨宮氏)

ウォーキングに関しては寒い時期とか試験の時期は大学構内にちょっと入れないので、寒い時期に何か企画があるとありがたいかなと思います。

可能かどうかわからないのですけれども、例えばああいうところでのコンサートというものだったら地域のまた別の趣味の方が聞きに行けるのかなと思ったのです。

(高良委員長)

では、これに関しましてはまた情報をお伝えしたいと思います。

あとボランティアに関しましては、先ほどのひがしのエリアさんと同じで、やはり担い手の問題というところもあると思いますので、後ほどあわせて検討したいと思いますのですが、よろしいでしょうか。

(馬場氏)

先に生活支援コーディネーターの活動報告をさせていただけたらと思います。

去年の5月貫井団地防災めぐりを実施しまして、その後8月に自主防災についての話し合い、9月に貫井団地の懇親会を社協さんと一緒に開催しました。結果、自主防災組織の立ち上げはすぐできないけれども、防災のまち歩きなどを定例化し、参加者同士が顔見知りになって、協力者をふやしていければいいのではないかという意見が出ました。そのためことしも今年5月26日の日曜日に防災まち歩きを実施する予定です。

また、集いの場の件では、貫井町エリアにある有料老人ホームアプリコという施設がありまして、負担にならないペースで月1回で始めてみるということで、ほかの会場でもやっているなのでその様子などを説明して9月に開催することになりました。さくら体操のリーダーさんに協力してもらい、地域に住んでいる方と入所の方と一緒に体操を始めました。施設担当者の方からはフロアのスペース上、12名くらいまでということで、ぎゅうぎゅうにならない緩やかな場をつくっていきたいという御意見もあって、広報活動も回覧板で地域を限定して行ってきました。今の時点では内部に住んでいる方、外の地域の方合わせて12名とちょうどいい数になったので、ほかでは広報活動を終了して、あとは口コミ程度で広まったらいいなと思っています。

3つ目なのですが、多世代間交流の場を持てたらということで、保育園と高齢者住宅に住む高齢者の方の交流の場の話し合いを行いました。クリスマス会ときは園児たちが高齢者住宅に行って歌を歌ったり、こまを回して遊んで、お互いにすごく楽し

んでいた様子です。保育園側でお誕生日会を毎月園で開催しているのですが、高齢の方のお誕生日もあわせてお祝いをどうですかという御提案をいただいているところです。ですが、高齢者の方は何となくそういう場に1人で行くことに気おくれしてしまう様子で、なかなか参加が進まない状況です。日ごろから近所の体操教室に御友人と参加されているという話も聞くことがあるので、御友人となら参加しやすいのではないかなという意見もあるかもしれませんので、こういった仕掛けがあればせっかくの資源とつながるのか今後考えていけたらと思っています。

あとはこちらに今度変わらしまして、30年度のみなみエリアの地域課題分析・評価シートに移らせていただきます。

30年度では、29年度の小地域ケア会議を受けまして、集いの場が少ないエリアがある、認知症に対する理解を深めることを課題に上げました。その背景としては、高齢者の要因のところでは歩いて行けるところに集いの場がないという意見や、あっても自分の望むような集まりの場がないという話をいただきました。あと認知症を疑うような行動、例えば植え込みの花を勝手に抜き取るというような行動を目の当たりにすると、それは性格から来ているのか病気からなのか判断に困ってしまうというような話もいただきました。

環境要因のところではいいと思いますと、地域づくりということで集いの場を選ぶときには自然と集まれる場を公共施設に選ぶことが多くて、そうすると公共施設が都合のいいところになかったり、なかなか場所が選べない、決まらないことがあったりします。あとは近隣同士の希薄化も認知症の原因ではないかと思えます。

去年1年を通して地域課題の変化のところでは、先ほどのアプリコの件でさくら体操の会場が1つふえたところと、生協の会議室で栄養講座を開いたのですが、これは最近高齢者の方の孤食が進んでいるので、そういうところで簡単な調理とか1品買ってきたりふやすとバランスのいい食事というようなことを伝えたくて講座を開きました。またサロンや集会に出向いて認知症サポーター養成講座を開いて、認知症の理解を深めることを行いました。

裏にいまして、30年度の活動計画のところでは、活動目標は、地域住民が感じる課題を把握する、認知症について正しい理解と対応についての周知を図っていく、既存の居場所のフォロー、出かけるきっかけづくりを上げまして、それに対して結果評価のところでは、貫井団地で社協の方と包括と団地の方と防災について何度か話し合いを行ったことと、②番ではサロンや学校に出向いて認知症サポーター講座を開いたり、ガイドブックを配布して理解を促していきました。会場の反応はいいところもあれば、余りよくないという言い方はあれですけども、そうでもないところがありました。③番の「応援ブック」配布で、地域住民に情報提供を行いまして、サロンや社会資源をつないでレクリエーションの幅を広げることができました。サロンでおし

やべりだけでは間が持たなくて、その間を余興で何かできないという御相談を時々受けることがあります。そのときにはいろいろ無料講座をやっているところとか体操教室をやっているところをおつなぎして、うちで支援しています。あとは④番で、初回訪問の高齢者宅に「応援ブック」を持参したり、スーパーに冊子を置かせてもらうということで、そうすることによって例えば麻雀に行きたいという個人の方の希望が、この冊子を使えば探しやすくなったという御意見もいただいております。

令和の今後のシートに移らせていただきますと、地域課題と考えられる課題のところでは、去年小地域ケア会議で防災について考えるというテーマでみなみエリアは話し合ったのですが、話し合いを開くといつも同じ顔ぶれしか参加しないことと、あとは防災のところで話に上がったのは、情報が欲しい人に向けての情報伝達の方法が課題に上がりました。

考えられる背景の高齢者要因のところでは、地域の課題にもともと関心を持っていないということがあり、あとたくさんある情報の中からどこに聞けば集約された情報を聞けるかを知らない人がいるのではないかという意見があったり、支援者側からすると誰がどんな情報を欲しいのかわからないという意見があるのと、最近活動の場がとてふえているので、高齢者の方がどこで活動しているのかが把握できないので、話し合いのときに的確な対象者に呼び込みができないという意見が上がりました。

環境要因では、話し合いに誘う対象者がどうしても来てくれそうな人に声をかけてしまいがちで、実際に断られたときには集まりにくいということが発生したりしました。あと町内会にもともと加入していなくて、回覧板とか配付物が行き届かないので情報が入りにくいという意見や、町内会の役員がかわって引き継ぎが全くされていなくて情報が伝わっていないこともありました。

それにつきましてことしの計画なのですが、活動目標は、とにかくいろいろな人に話し合いに参加してもらうことと、人が集まっているところに出向いて情報発信していきましようということが上がりました。

手段としては下に書かれているようなことをこれからしていこうと思います。

以上です。

(高良委員長)

先に1つ確認させていただきたいと思いますが、さくら体操のときに何かけがとかをした場合は責任問題になるということはあるのですか。

(濱松包括支援係長)

特にそこまで踏み込んだ話は基本的にはしていないというのが現状だと思います。保険については管理会場についてはかけてはいますけれども、正確なことを申し上げられないのですけれども、恐らく自主会場については全員かかっていなかったと思います。

(高良委員長)

先ほどさくら体操の会場をといた際にそういった御不安があるというお話がありましたが、やはりそういった御不安があると、どうしても会場をあれしたくないとか、居場所にしても同じだと思うのですが、そういったところがあると思いますので、そのあたりの不安をどういうふうに解消していくのかは1つ全体として、小金井市としてどうなのかは考えておく必要があるだろうなと思います。もちろん管理会場はちゃんとされていらっしゃるということですから、自主的な活動に関してはどういうふうに考えられるのかというところの整理を一応されておいたほうがいいのかもしいかなと思います。

保育園のほうでせっかく誕生日の日に高齢者の方に来てください、来てもらえればというようなある意味なかなかできないであろう多世代の交流ですね。

(井上委員)

今、私がやっているピア・サロンの中で、貫井保育園の場所を借りて月に1回やっております。それは園児と先生が途中15分くらいですけれども、最後のところに入ってくるのですけれども、園児たちも張り切って来るのです。高齢者も急にお顔が柔らかく優しくなって、つい先日の土曜日も、今度6月に運動会があるからそのときに体操を見てと行って、それでやってみたり、歌を一緒に歌ったり、私より高齢の方ですから、お孫さんといったらもう大きくなっているお孫さんですから、逆にそういう小さい子とのかかわりが余りないのです。でも、子供も頑張ってくれる、高齢者も一緒に声を出して、多世代というか、とても交流はいいことだと思うのです。また、貫井保育園の園長先生のそういう御協力ももう20年以上続いていますので、ありがたいと思います。

(井上委員)

保育園に関しては、前は運動会とか行事のときにお誘いがあったのですけれども、今は1人の子に対してパパママ、パパママのじじばば、じじばばと関係者が多くて、もうそういう行事には逆にお誘いしませんというお話があります。

(高良委員長)

どういうときに、むしろ平素やられているときに一緒にできる状況があるのは、お互いにとっていいことだと思います。

(中川氏)

活動と会議の報告については資料を御参照ください。

大きな流れについては、平成29年から開始されているみんなの安心・ささえ愛ネットミーティングはけやき通り商店会のあたりの方たちを中心とした会議なのですけれども、毎月定期開催されています。その中で商店会についてのアンケートを28年に行われたのですけれども、買い物することよりも居場所づくりであるとか高齢者の

方が安心して買い物に行ける場所づくりを希望されているという地域の住民の声が上がり、そのアンケートの結果を受けてみまもりあいプロジェクトというアプリを使った、高齢者であったりその他の方々の行方不明の人を探すツールを推し進めようということで話し合いを進めていました。そういったことを続けていく中で、今年度小金井市でみまもりあいのアプリではないのですけれども、ステッカーというツールを導入されたというところにつながっています。

30年度の課題と評価なのですけれども、1つ目が、地域活動や地域資源の情報を知らない人がいる。2つ目が、こちらは平成29年度の小地域ケア会議の中で免許返納がなかなか進まない理由は何だろうという話をしたときに、買い物に1人で出かけられないとか、出かけても荷物を運ぶことが難しいところをこちらの会で上げさせていただいています。3つ目が、多世代交流できる場所や機会が少ないことがありました。

裏面の目標ですけれども、1つ目が、圏域内へ生活支援事業のPRを行い、今後の地域づくりの体制整備に向けて連携を進める。2つ目、圏域住民や活動グループ間の交流や地域課題についての情報交換を行い、ネットワークづくり及びマッチングにつなげる。3つ目、多世代交流の場を含め、新たな通いの場の立ち上げ支援を行うということで昨年は動いていました。

地域の変化と成果なのですけれども、1つ目は情報ツールとしての「応援ブック」を今までは病院であるとか公民館であるとかそういったところには配布させていただいていたのですが、それ以外にも身近なコンビニやスーパーにもお願いして置いていただけるようになりました。定期的に補充も行っております。

2つ目の買い物の件についてなのですが、平成30年度の小地域ケア会議では買い物の支援についてどういったことが今すぐできそうか、実現するにはなかなか難しそうなことはどんなことなのかを話し合いました。そういったことを話し合う中で、身近な助け合いのちょこボラが必要だねということにも地域の皆さん、参加された方にも気づいていただけたので、2月からなのですけれども、有志の方たちに参加いただいてちょこボラ会議を行い始めたということです。

3つ目は多世代交流できる場所や機会が少ないということで、梶野町地域で顔の見える関係づくりとして協議の場を持てるようになりました。民生委員の方であるとか薬局の方、地域の事業者の方が集まって話し合いの場を設けています。高齢者の方に限らずなのですけれども、子育て世代を中心とした話し合いの場であったり、地域の事業者がもっと活発に発展できるような場所になるといいねということで、梶野公園祭りの企画の手伝いなどを今は行っている状況です。今後お祭り以外にも何かできるものはないか話し合っています。そのほかさくら体操の会場を3カ所立ち上げております。その中の1つが多世代交流につながっているのですけれども、梶野公園プレー

パークという子供たちが集まって遊んでいるような場でさくら体操をコラボレーションして一緒にやっているところです。

令和元年度の課題と目標ですけれども、平成30年度の課題が全て解決できているということではないので、継続的な内容とさせていただいております。1つ目が、買い物ができない、大きな荷物を動かせないなど、その家庭では解決できないことがある。2つ目が集いの場が少ないということを上げさせていただき、活動目標については、今、どうしても包括が中心でちょこボラ会議を行ってしまっている部分があるので、住民主体でやっていただけるようにできたらと思っております。2つ目が、多世代交流を含めた集いの場の立ち上げ支援、活動の定着を支援する。3つ目が社会資源などの情報発信を行うということを上げさせていただきました。

以上です。

(高良委員長)

御質問、御意見はありますか。

(清水委員)

ふれあいささえ愛ネットというの、認知症を探す、私も2年くらい前に登録したのだけれども、1回くらいしか入ってきていないけれども、実際はどのようなのですか、もっと入っているのですか。

(中川氏)

きた包括の中川です。

私も1年くらいやっているのですけれども、それほど件数的には入ってきていないですね。

(清水委員)

ということは、それを知っている認知症を抱えている家族の人が登録しておくとう便利だというのがうまくいっていないのではないかと思うのだよね。そういう伝達方法というか、PR方法というか、せっかくそういうアプリをつくってみんなに協力してもらっているのに、今、言ったようにほとんど入ってこない。実際に小金井市さんがどうかかわからないけれども、では認知症の方が行方不明になった、どのくらいの人数が報告されているかわからないですけれども、年間何十人とかいるのではないですか。そういうふうに私は思うのですけれども、具体的なあれはわからない。

(濱松包括支援係長)

事務局、濱松です。

今、清水委員がおっしゃったとおり、認知症の方が行方不明になっている正確な数というのは、全ての数が行政に上がってくるわけではないので把握しているわけではないのが現状になっています。

今、おっしゃっている今年度から市で事業化を始めた見守り支援事業の一部がアプ

リケーションを活用した地域づくりになってきて、認知症の方がいらっしやって行方不明になっていきますといった場合には、そのアプリを通じてこういう方が行方不明になっていきますという案内が出る仕組みになっていると思うのですけれども、ことし我々が事業化して、清水委員がおっしゃったとおりそんなにたくさん的人数を見込んでいるわけではなくて、予算規模的にはおおむね20人程度の方に行方不明になったときに連絡先が書いてあるシールをお渡しできればいいかなと思っています。

この事業の中で一番大事だと思っているところは、実際にシールを張ることによって家族の方の不安を和らげるのも1つなのですけれども、それとセットになってアプリケーションを入れることによって地域の方々が、認知症の方がいなくなったら自分のスマートフォンに通知が来るのだ、そういう方が地域にもいらっしやるのだということ、地域としてそういうことがあるのだということ把握していただくことも大事な事業の1つだと思っています。もちろん具体的に実際に認知症の方が行方不明になられて、アプリケーションを通じて探すというのも1つなのですけれども、それを通じて地域づくりをしていくのもこの事業のメリットというか、いい部分だと思っていますので、実際に最初の20人からもっと人数がふえていけばそれはそれでいいのですけれども、そういったことを通じて認知症に関する地域づくりを進めていければいいのかなということで市も事業化したところでございます。

(高良委員長)

多分清水委員がおっしゃりたいことは、やはりちゃんとアプリがあるにもかかわらず、本当に必要な人がちゃんと確認できているかどうかということだと思います。その辺の検証というか、実際もとのところを全部把握するのは非常に難しいと思うのですけれども、本当に必要な際にアプリを活用することによってこんなことができたのですよとか、数でなくてもいいから、とにかくアプリを使うことによってこういうふうに見出すことができているので実際助かったのですみたいなこれまでの経験はないのでしょうか。

以上です。

(高良委員長)

ちょこボラに関しては、先ほど来全てのエリアでも、みなみさんは余りないのかな、でもほかのところではボランティアの方、担い手をどうするのかというのが非常に大きいというお話がありましたが、実際きたエリアではちょこボラの方たち、有志の方々でお話し合いを始めていらっしやるということですので、これらに関してはやはり有志の方たちでやってみようみたいな、割と主体的にその方たちが始められたという感じですか。

(中川氏)

小地域ケア会議の、今後もまた話し合いを続けたいですかといったアンケート報告

の中で、はいとおっしゃられた方を集めてお話し合いを持っているところなのですが、もともとボランティアをやっていて興味のある方もいらっしゃるれば、新たに何かを立ち上げてやりたいと思っている人とさまざまな感じで温度差はいろいろあるところと、あと実際にボランティアを買い物を具体的にするとかいう方向で手伝いたいと思っているのか、まだ方向性が決まっていないところです。その仕組みづくりをみんなでお話し合うところがメインになっているのかわからないです。

(高良委員長)

いずれにしてもやりたいという意欲を持っていらっしゃる方がいらっしゃるというのは本当にすごい宝なわけですから、そのところを継続してお話し合いを始めていただいているというのは、この後何らかの形では、ボランティアになるのかまた別の活動になるのかわからないですけれども、継続していけるのではないかなと思いますが、そのあたりが多分やはりやろうという方たちを見出すのは難しいのでしょうか。きたエリアさんは小地域ケア会議のアンケートで見出されたという1つの方法だと見られるのだと思いますが、そういったところはもしかするとひがしエリアさんにしてもにしエリアさんにしてもそういった方をいかに発見するのかという1つの方法としてはあるのではないかなと思います。

それ以外に何かこういうものが、先ほど小早川さんからもおっしゃっていただきましたが、いろいろなところでつながっている中でこの人ならみたいなところをずっと継続して頭に置いておくというのは絶対ありなのだろうと思うのですが、実際にそういった方たちが割といらっしゃるエリアもあれば、なかなかいらっしゃらないエリアもありますよね。そうするとある意味中から発掘するプラス何らかの形で啓発なり意識づけをしていただいて養成していく視点も必要になってくると思います。そういった際には社協さんで行っていらっしゃる地域福祉ファシリテーターでしたか、そういったところも協働でやっていただくという視点は必要だと思うのですが、にしエリアさん、ひがしエリアさんで地域福祉ファシリテーターになられている方はいらっしゃるのですか。

(阿久津委員)

社会福祉協議会の阿久津です。

実際にうちはサロンとか居場所事業とかファシリテーターさんが立ち上げているところに全圏域の方と協業させていただいてやっています。全てではないですね、きたさんはやっていないです。まだないです。ただ、ひがしさんもしさんみなみさんも一緒にやっています。

(高良委員長)

それでもひがしさんのところの家の立ち上げをするのでやってもいいよみたいな方が、地域福祉ファシリテーターの方とか、もしくはその関連の方でも見つからない感

じでしたか。

(金子氏)

一応圏域の中で養成講座を受講いただいた方もいらっしゃるのですが、坂下エリアの方は余りお見受けしないです。

(高良委員長)

せっかくそういうすばらしい機会も使っているにもかかわらずとなると、またなかなか難しい問題になりますね。

継続的にやっていらっしゃる連絡会でも、中川さんのほうでお話しいただいたちょこっとボランティアの話し合いみたいなのところもあわせて共有いただきながら、全体としてどういうふうに進めていく必要があるのかを、市全体としても課題である担い手の育成の部分とも絡めながらやっていくことが必要ではないかと思えますので、継続的に御議論いただければと思います。

(中川氏)

疑問というか、どのように進めていったらいいかということで考えているのですが、定期開催していきたいとは思っているのですが、今、3回目をやったところなのですが、最初は10人、次が5人、次が3人とだんだん尻すぼみになってきているところもあるので、どのように継続的に会をつなげていったらいいのかということと、今は包括が中心になってというところなのですが、やはり住民主体でやっていただきたいという思いがあるので、どのように会を進めていったらいいかで悩んでいます。

(小早川委員)

社協でもだんだん人が減るとなると、何か形を変えるとか違う人を呼ぶとか何かしないと何となく尻すぼみになりがちなので、そこら辺は苦勞しているところです。

あと1点、うちが居場所をみなみ包括の圏域で来週の火曜日やるのですが、それを開催するボランティアさんは別にそこに住んでいる人ではないのです。圏域に住んでいる方ではなくて、自分たちで何かやろうねと話し合っていて、あ、場所があったからやりましょうと。だから別にひがしの圏域の、その近くの人ではなくても何かそういうものをやりたい人だったらそこに行ってやるとなるから、別にほかの圏域で誰かお互いに交換してもいいのかなと思いました。

(高良委員長)

それはすばらしい視点だと思います。確かに絶対自分のエリアのところに住んでいる、近くに住んでいるからやるという、逆によく知っているからやりたくないということもありますものね。そう考えると、例えばボランティアというか担い手の不足が課題ではないみなみエリアさんでボランティアをやりたい人もいるからみたいなので、こっちのほうにあるらしいですよみたいなことでやってもらうのもありですよ。

(阿久津委員)

社協の中でも地域福祉コーディネーターというのが、東京都の中でこういった生活支援コーディネーターと地域福祉コーディネーターがかぶっているのです、そういった課題は全部ヒアリングして、今、つくっていかうとしているところなのですけれども、そこで出た意見がやはり場所ありき、課題ありきという2つに分かれたねという結果が出たのです。なのでプラットフォームありきでやるものと課題から発生するものと全く違って、今はどちらかというニーズ型になってきている傾向があります。なので課題があったところに人に行ってもらおうと、そこに根づくやり方というのが、今、傾向としてあるというのは、社協の中でそういった方向に行くという部分が地域福祉コーディネーターという事業の中ではあります。

(高良委員長)

きたエリアのお話をされている先ほどの部分では、課題認識はされていらっしゃるということですよ。包括さんが何かを、ここはできましたねというふうな認めをやっていくのももちろん1つだと思うのですが、できれば何のアクションでもいいので、すごく小さいアクションでも自分たちが動いたからこうなったというものが見える、例えばおひとりの高齢者の方にちょっとお話を聞いただけでもいいと思うのです。そうしたらその高齢者の方が、こういうものが本当は欲しいのだよねと言ってくれたので、やはり我々はやる意義があるんだよねと感じられたとか、そういうふうな動きにつながるものを入れてこない、話し合いばかりを継続してやると一段としぼんでいくのではないかなという気がします。

3 その他

次回協議体の開催予定

(高良委員長)

次回協議体の開催予定につきまして、お願いいたします。

(濱松包括支援係長)

次回協議体の開催予定についてお伝えいたします。次回協議体は現時点では9月17日の火曜日午後2時からを予定しております。よろしくお願いいたします。

以上です。

4 閉会